

国語 第1学年 せつめいする 文しょうを かこう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第1学年下巻の書くことの単元で、直前の読むことの教材「じどう車くらべ」で学んだ説明の順序を使って書く。単元名・配当時間数は同社の年間指導計画例による。他社の教科書では教材が違うので、乗り物や動物の説明文を読んだ後に、事柄の順序に沿って説明する文章を書く単元に置き換える。「しごと」と「作り」の文のつながりの言葉は、使う教科書の説明文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、物や乗り物を説明する時に、「しごと（何をするか）」を先に書き、そのための「作り」を後に書く順序を自分で選べる。図鑑や本から「しごと」と「作り」に当たる事柄を見つけて短い言葉でメモし、その順に並べて、二つの文のつながりの言葉を入れた説明の文を書ける。書いたカードを友達と読み合い、順序が分かりやすいかを確認められる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)イ	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕 (2)ア	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(2)ア	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(2)ウ	ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。
〔第1学年及び第2学年〕 の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に応ずる幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。

単元の目標

- (1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。〔知識及び技能〕(2)ア)
- (2) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。(書くこと B(1)イ)
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(第1学年及び第2学年の目標(3))

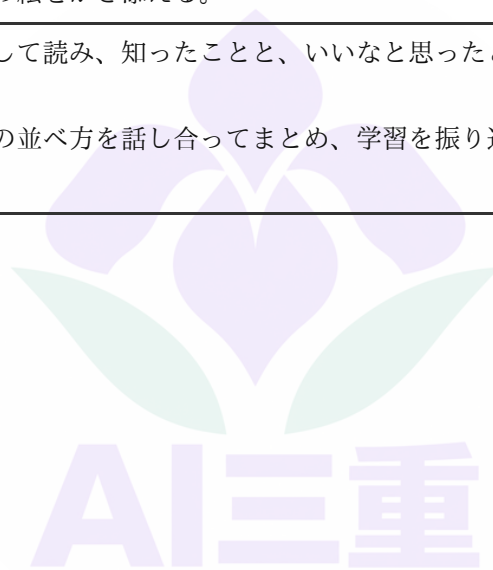
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	①進んで、説明の順序を考え、学習の見通しをもって、自動車の「しごと」と「作り」を説明するカードを書こうとしている。

単元の流れ

全5時間（書くこと5時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（1年）の配当による。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第1学年で年間306単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○「じどう車くらべ」で学んだ、「しごと」と「作り」の順序と、二つの文のつながりの言葉を思い出す。 ○学習課題「じどう車しょうかいカードを書いて、クラスのじどう車ずかんを作ろう」を確かめる。 ○図鑑や本を見て、紹介したい自動車を選ぶ。	態①（発言）
第2次	2	○選んだ自動車の図鑑や本を見て、「しごと」と「作り」に当たる事柄を見付け、組み立てメモに短い言葉で書く。	知①（組み立てメモ）
	3 （本時）	○組み立てメモを見て、「しごと」→「作り」の順に並べ、二つの文のつながりの言葉を入れて、カードの文を考えて書く。	思①（カード・組み立てメモ）
	4	○書いた文を声に出して読み返し、順序と言葉を確認して清書する。自動車の絵をかき添える。	態①（見直し）
第3次	5	○カードを交換して読み、知ったことと、いいなと思ったところを伝え合う。 ○図鑑のページの並べ方を話し合ってまとめ、学習を振り返る。	知①（発言） 態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：選んだ自動車の「しごと」と「作り」を、「しごと」から「作り」の順に並べ、二つの文のつながりの言葉を入れて、説明の文を書くことができる。(B(1)イ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 「じどう車くらべ」の表を見て、説明の順序を確かめる。 ○「教科書の自動車は、どんな順番で説明されていましたか」 2 前時に書いた組み立てメモを見る。 【めあて】「しごと」と「つくり」のじゅんに、じどう車のせつめいをかこう。 〈予想される児童の反応〉 ・はじめに「しごと」、次に「作り」の順番だった。 ・「しごと」と「作り」の間に、つなぐ言葉があった。	・「じどう車くらべ」で作った表を黒板に貼る。取り上げた自動車の名前とつなぐ言葉は、使う教科書に合わせて先生が書き入れる。 ・先生が書いた見本のカード（教科書に出てこない自動車）を一枚示す。
展開 (分)	3 組み立てメモの「しごと」と「作り」に、①②の番号を付ける。 ○「どれを先に書くと、読む人に分かりやすいでしょう」 4 つなぐ言葉を入れて、カードの下書きを書く。 5 隣の友達と下書きを見せ合い、順序とつなぐ言葉を確かめる。 ○「友達の説明は、しごとから書いてありますか。作りとつながっていますか」 6 直した方がよい所を書き直す。 〈予想される児童の反応〉 ・しごとを先に書くと、なぜその作りなのかが分かる。 ・作りが二つあるから、二つとも書きたい。 ・作りを先に書いてしまった。 ・つなぐ言葉が抜けている。 ・図鑑の文を全部写して、長くなった。	・メモの事柄が多い子には、「いちばん知らせたい作り」に丸を付けさせ、それから書かせる。 ・書き出せない子には、文の型の用紙（自動車の名前・しごと・つなぐ言葉・作りを順に入れる）を渡し、メモの言葉を入れさせる。 ・作りを先に書いた子には、表の自動車の説明の順を指で追わせ、自分の文と比べさせる。 ・図鑑の文をそのまま写す子には、メモの短い言葉だけを見て書くように声をかける。 ・早く終わった子には、作りをもう一つ足して、しごととどうつながるかを書かせる。 ・文末は「です」「ます」にそろえる。
まとめ (分)	7 何人かが下書きを読み、順序とつなぐ言葉を確かめる。 【まとめ】しごとをさきにかくと、よむひとにわけがよくわかる。 8 振り返りを書く。	・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。 ・振り返りは「じゅんばんにきをつけてかけたか」と「ともだちのせつめいでいいとおもったところ」の二つ。 ・次時は、声に出して読み返して清書することを伝える。 ◎思①（カード・組み立てメモ）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて（ひらがな、分かち書き）。その左に「じどう車くらべ」の表（自動車・しごと・作り）を貼り、しごとに①、作りに②の札を付ける。中央に先生の見本のカードを貼り、しごとの文、つなぐ言葉、作りの文に色を分けて線を引く。その左に、子どもの下書きで見付けた「よい順序」と「つなぐ言葉」の例を並べる。左端にまとめ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、図鑑の文を全部書き写して、何がしごとで何が作りか分からなくなる。手当ては、図鑑を見る時間とメモを書く時間を分け、メモは短い言葉だけにさせること。二つ目、作りを先に書く、または二つが混ざる。手当ては、メモに①②の番号を付けてから書かせ、「じどう車くらべ」の表と比べさせること（B(1)イ）。三つ目、しごとと作りが結び付いていない（しごとと関係のない作りを書く）。手当ては、「その作りは、しごとのどこに役立つか」と聞き、言えない作りは外させること（(2)ア）。四つ目、紹介したい自動車が見付からない、または図鑑に載っていない自動車を選ぶ。手当ては、学校図書館の司書と相談し、乗り物の図鑑や本を単元の前にそろえ、選べる自動車を見える所に並べておくこと（第3の2(3)）。五つ目、文末がそろわない。手当ては、型の用紙で「です」「ます」を示し、読み返す時に文末に丸を付けさせること。

プリントの案

組み立てメモ

上に自動車の名前の欄。その下に「しごと」と「作り」の二つの枠を縦に並べ、それぞれに番号（①②）を書く丸を付ける。作りの枠は二つまで書けるようにする。短い言葉で書く。〔知識及び技能〕(2)アとB(1)イに合わせた。

じどう車しょうかいカード

上に自動車の名前、左に絵をかく枠、右に文を書きます目。ます目の始めに「しごと」「作り」の小さな見出しを入れた物と、入れない物の二種類を用意し、子どもの実態で選ぶ。

文の型の用紙（書き出せない子のため）

一文目は「(自動車の名前)は、(しごと)しごとをしています」、二文目は「(つなぐ言葉)、(作り)がついていきます」の型。つなぐ言葉は使う教科書に合わせて先生が書き入れる。メモの言葉を（ ）に入れて書く。

ふりかえりカード

「じゅんばんに きをつけて かけたか」に◎○△で印を付ける欄と、「ともだちの せつめいで いいと おもったところ」を書く欄。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価標準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（1年）「1年下巻」の本単元の行と、直前の「じどう車くらべ」の行。単元名・配当時数（書くこと5時間）と指導目標の指導事項の出典。第1学年上巻の単元の並びも同じ計画例で確かめた。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306・第2学年315・第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県で公開されている小学校の学習指導案の形（見出しの順と表の列）に合わせた。中身は写していない。例：三重県総合教育センター掲載の実践事例集（令和7年度）（https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2026/03/r7_ICT_English_case_studies.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

